

# 平成29年度 学校自己評価システムシート (県立杉戸農業高等学校)

目指す学校像	いのちとみどりを育む学舎で、人間性豊かな心身ともにたくましい産業人を育成する。
--------	---

重点目標	1 授業をはじめ教育活動を改善して実施することにより、生徒の学力の向上を図る。 2 社会人として必要な基本的内容を身に付けさせることにより、評価される人材を育てる。 3 効果的な指導を計画的に行うことにより、生徒の進路希望を実現させる。 4 地域の要望に応え、地域に貢献する活動を行うことにより、地域から信頼される学校となる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標			年度評価(3月15日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>本校には、幅広い学力層の生徒や特定の分野に高い関心をもって入学してくる生徒がいる。また中学校まで、目立たない存在であった生徒も多数入学している。</p> <p>そこで、生徒を伸ばすためには、生徒個人個人の状況をそれぞれの教科及びHRで把握し、個々の生徒の実態に応じた課題設定を行うことや、生徒に興味関心を持たせた授業を実施する必要がある。このことにより、生徒の自主的な学習を促したい。</p> <p>また、生徒に「なぜ」と考えさせたり、多くの経験を積ませたり、実際に世の中で役に立っている知識・技術を交えた活躍の場を与えることにより、主体的な取組につなげ、様々な分野の学力の向上を図っていく。</p>	○各教科及びHRで個々の生徒の実態把握し、共有する	①担当授業等の進捗・単元・実習等項目ごとの評価指標を設定し、その指標に基づき、個々の生徒の理解度・到達度を記録・把握し、情報を共有する	①生徒が理解できていること・できていないことなどを把握し、情報共有できたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元や実習項目毎の評価はできず、全体として生徒の理解度を把握し、情報を共有できた。</li> <li>意欲を持って授業に取り組む生徒が2%増えた。努力している生徒6%増</li> <li>授業公開を2回実施。落語家を招いて引きつける授業について研修会を実施。</li> <li>授業観察後、課題を伝えた。</li> <li>欠点者は29%大きく減少した。</li> </ul>	B	
		○生徒の興味関心を高め、主体的に取り組む生徒を育てる授業を実施する	①生徒に興味関心を持たせる授業計画・組み立てを各教員が再考し実践する ②授業公開を3回以上設定し、教員同士の授業研究を行うとともに、授業力向上の研修会を行う ③管理職が授業観察を行い、フィードバックする ④学習の取組や習得が芳しくない生徒には、日常的に細かな指導を行い、欠点をとらせないようにするとともに、評価に関する研修会を実施する	①授業に興味関心を持つ生徒が増えたか ②授業公開を3回以上、研修会を1回以上、教員同士の授業研修が行えたか ③管理職が授業観察を行い、成果と課題を授業者に伝えたか ④評価についての現状が理解でき、欠点者が減少できたか		<ul style="list-style-type: none"> <li>会務・行事は的確に実施できた</li> <li>生徒会の各行事に生徒の自主的運営を促す機会・組織を設定し活動を充実させた</li> <li>生徒募集等で生徒が活躍できた</li> </ul>	B
		○生徒の活躍の場を設定する	①学校農業クラブ活動を計画的に行い、役員生徒及び生徒全員に、しっかり取り組ませる ②生徒会等に関する行事を生徒が中心となって運営し、充実して実施する ③行事などで生徒が活躍できる多様な場を設定する	①学校農業クラブ活動が、計画的にしっかり行えたか ②生徒会行事の運営が生徒が中心となり行えたか ③生徒が活躍できる場が設定できたか			A
2	<p>卒業後、社会人として社会生活を送る上で必要な、挨拶、服装、言葉遣い、時間を守る、清掃の取組、率先した行動、交通ルールの遵守等が十分身につけていない生徒、TPOによる使い分けができない生徒が一部いる。また、携帯電話等の使用マナーに問題がある生徒が多くみられる。</p> <p>これらの生徒の中には、ルールやマナーを学ぶ機会がなかった者もいると考えられ、これらをしっかり知らせ学習させていくことで、社会で評価される生徒を育てていく。</p>	○遅刻者・欠席者を減少させる	①授業や行事等を定刻で開始し、チャイム着席を励行する ②欠席・遅刻の際の連絡をさせる指導を徹底する ③個々の生徒の状況を把握し、面談による改善指導を行う	①遅刻者が減少したか ②欠席・遅刻する者(家族)が学校に連絡したか ③欠席・遅刻の多い生徒の改善指導を実施したか	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻は19.4%減少。</li> <li>概ね連絡があった。</li> <li>学年・生徒指導部で実施。9割の生徒が改善した。</li> </ul>		A
		○交通事故を減少させる	①交通ルールを学習する機会を設定する ②定期的な自転車点検を実施する ③定期的な自転車の一時停止違反、傘差し運転、イヤホンでの運転等防止のための指導を実施する	①交通ルールを学習する機会が持てたか ②自転車点検を3回以上実施したか ③自転車のルール違反や危険運転等が減少したか		<ul style="list-style-type: none"> <li>「交通安全教室」を実施。また適宜集会等で指導した</li> <li>自転車点検2回実施。</li> <li>自転車事故24件、1.9倍に。</li> </ul>	B
		○携帯電話等の使用マナーを遵守させる	①携帯電話等の使用マナーと危険性を学習する機会を設定する ②TPOによる使用規制を実施する	①学習する機会が持てたか ②TPOによる使用規制規程を作成できたか			<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導主任による講話を実施。</li> <li>使用規制基準を作成し、保護者にも協力依頼した。</li> </ul>
3	<p>生徒の進路について、2年後半になってから具体を考え出す生徒が多い。最終的には、教員の意識付け、指導で進路決定率は高いが、入学当初に希望する進路の実現が必ずしも順調とはいえない状況がある。また、進学者の中退や就職後の早目の離職もある。</p> <p>そこで、生徒自身に明確な進路目標を早めに持たせ、入学時から着実に活動させることが大切であり、そのために進路指導の仕組みや進め方などを早めに学ばせる必要がある。世の中で必要とされる人材の育成に向け、保護者の理解・協力を得るためにも、保護者にも早くからの進路情報の提供が望まれている。</p>	○農業、関連産業の担い手を増加させる	①1年生全員の農業・関連産業へのインターンシップの実施	①農業・関連産業への興味関心が高まり、自らの適性が理解できたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後指導を実施し適性等を確認させた。実施後に実習先での内容に関心を持った者が26%増えた。</li> </ul>		
		○100%進路決定を実現させる	①生徒に意識付けを行い、受験先の情報収集と合格のための準備を行わせる ②学校全体で3年生の面接指導、論文指導等を行い、合格に向けた適切なアドバイスを行う	①生徒の進路が100%決定したか ②組織的な進路指導が行えたか		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路は99%決定した。</li> <li>論文指導や面接指導を大学・企業に応じて担当を決め組織的に実施。</li> </ul>	
		○早めの希望進路の検討と希望を実現させる	①入学後早い段階から、進路指導の仕組みや進め方を生徒・保護者に説明し、理解を進める ②早めに希望進路を検討させ、実現のための情報収集をさせ、計画的な準備・活動を行わせる ③3年間の進路指導計画を作成する	①1年及びその保護者に対して、本校の進路指導の仕組みが伝えられたか ②2年前半までに、求人票の確認やオープンキャンパスへ参加させたか ③指導計画が作成できたか			<ul style="list-style-type: none"> <li>5月のPTA総会後説明を実施。</li> <li>2学年の夏季休業中の課題として実施。求人票への関心は高い</li> <li>進学、就職の3年間の指導計画ができた。</li> </ul>
○進学者の中退と就職者の早期離職を防止する	①進路先決定者(心構え等の)ガイダンスを実施する ②進学・就職後、状況を確認し、必要に応じてアドバイスする	①進路決定者にガイダンスが実施できたか ②卒業後の状況を確認できたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>「マナー講習」や進学決定者向け補習を実施。</li> <li>状況を十分に確認して把握できた。</li> </ul>	A			
4	<p>地元杉戸町や、生徒の出身中学校、近隣公共施設等からの依頼、例えば新商品の開発、出前授業や見学、農産物販売などの実施が、年々増えている。授業等との兼ね合いもあり、要望にどこまで応えられるか課題もあるが、できるだけ地域の要望・期待に応え、本校を一層理解していただくことを進める。</p> <p>また、地域に学校の状況を知ってもらうよう、情報を発信していく。</p>	○地域の要望へ組織的に対応する		①要望内容により校内の窓口を決め、要望に十分応えられるよう調整を図る ②対象に応じた効果的な資料作成を行い、実施する	①依頼先からの要望に応えられたか ②効果的に実施できたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>要望を98%対応できた</li> <li>学校の様子・取組を十分に伝えることができ、評価も高い</li> </ul>	
		○学校情報の積極的な提供を行う		①HPに本校の基本情報を掲載し、それを定期的に見直し、新しい情報を提供・発信する ②学校を紹介する資料を作成し、地域に配布するなどを行い、学校の状況を積極的に発信する	①HPに本校の最新の基本情報を掲載し話題をその都度発信できたか ②学校紹介資料を作成・配布できたか		<ul style="list-style-type: none"> <li>HPは適宜更新できた。メニュー等を改善し見やすくした</li> <li>資料を作成できた。中学生へ配布できた</li> </ul>
		○目的意識の高い志願者を確保する	①中学校の出前授業、高校見学、説明会、体験入学等の機会に、積極的に本校の良さをPRする ②中学校への積極的な働きかけを行う	①本校の中学生向け行事に参加した中学生が志願してきたか ②本校への志願者が増えたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>志願者の98%が生徒募集行事に1回は参加。出前授業等を行った68%の中学から志願。(全志願者の24%)</li> <li>志願者は2.6%減。</li> </ul>		

学校関係者評価	
実施日	平成30年1月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>学力を身につけるシステムを構築して欲しい。定期考査前に、学年で補習をしているのは大変良いと思う。成績上位の生徒を伸ばすための補習などにも取り組んでほしい。興味を持った者が誰でも参加できるような講座を実施してみるのもおもしろいのではないかと。</p> <p>色々な行事で生徒の活躍の場を設定していることは大変良いことである。地域連携を活用して生徒のやる気を引き出していることも大変良い。今後も生徒が主体的に活躍できるよう指導してほしい。</p>	
<p>生徒会の「挨拶運動」は、生徒が仲間に呼びかける大変良い取組だと思う。頑張って続けて欲しい。</p> <p>交通事故については、粘り強く指導していく必要がある。</p> <p>全体的に学校が落ち着いている。農業の教育力を活かして教育環境をさらに整え心の成長も促してほしい。</p>	
<p>進学が増えているので、合格できるよう、論文指導や入試対策を強化する体制を整えて生徒の希望を実現してほしい。また大学入学後のことを考えると、基礎学力を身に付けて入学できるよう指導してほしい。</p> <p>将来、農業をやりたいという者が何名もいるとのことなので、農業の生産法人など外部と連携した取り組みができるとよい。</p>	
<p>地域に本校の状況を理解してもらっていることは本当に良いと思う。さらに地域や企業に学校の良いところを積極的にPRして、目的を持った生徒の確保や進路先の充実に努めてほしい。</p>	